

得意 淡然 失意 泰然

とくいたんぜん、しついたいぜん

「得意のときに驕（おご）り高ぶることなく、
失意の時には取り乱さず落ち着いて構えていなさい」
という意味。

人生は晴れの日ばかりとは限らない、
とって雨の日ばかりでもない「焔（ほのお）の時」と「灰の時」とがある。
「焔の時」とはなにをやっても上手く行く時であり、
こうゆう時は、少々、無理をしてもすべて成功する。
だが、「灰の時」とは何をやっても上手く行かぬ時であり、
もし、「灰の時」に入ったと判断したら、何もやらずに沈潜し、ひたすら、自己を磨くことである。
しかし、何もやってはいけない「灰の時」に何もやらないでいることは、
かなりの勇気と賢明さが必要である。
勇気と賢明さをもたぬ小心者は、必ず「灰の時」にジタバタして失敗する。

明の時代の学者、催後渠（さいこうきょ）の「六然（ろくぜん）」より